

---

# 天使たちのめるへん

うさぎさん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

天使たちのめるへん

### 【Nコード】

N8291I

### 【作者名】

うたぎさん

### 【あらすじ】

八人の天使達が愛する人を笑顔にする話です。

ある雪の日に始まる幸せなお話（前書き）

今の世の中、殺伐とじているでしょう。こんな天使がいてもいいかも。愛しい天使達のメルヘンかな！

## ある雪の日に始まる幸せなお話

雪です！

朝からふわふわ雪が降っています。こんな時、お空から天使さんも降りて来ます。

天使さんは神様に命令されて人間のところに行くのです。何をしに、そう誰かをにっこり笑顔にさせるために神様の所から雪に乗って地上に降りて来たのです。

そう天使さんは、一人二人三人います。娘さんです。男の子も女の子もいます。お空から降りて来るとみーんな急いでどこかに消えてしまいました。どこへって。悲しく笑顔の消えて途方に暮れている人の所にです。

一人目の天使さんは、小さい男の子です。小さいかわいい羽根が背中に着いています。頭の上にはエンゼルリングがやつぱりあります。でもね人間には見えないのです。天使くんはある家に着きました。そこには子供のいないおじいさんが独りで住んでいました。淋しいので元気なくションボリしていました。天使くんは、扉をトントンたたきます。扉が少しだけソロリ開きました。おじいさんは天使くんを一目みて涙があふれました。だってこの間天国に召された一人娘一家の孫にそっくりなのですから。

天使くんはおじいさんに（おじいさんこんにちは）とかわいい声で言いました。

おばあさんが亡くなって町から娘一家が一緒に住むため戻って来る途中事故にあってみんな死んでしまったはずなのです。実は神様がおじいさんがあんまり元気がなく悲しみうちひしがれているので、天国に来たばかりの男の子天使くんにおじいさんを笑顔にするために差し向けたのです。

おじいさんは目の前の孫の天使くんを家の中に招き入れました。なんだかわけわからないままそれでも二人は仲良く暮らし始めま

した。

次の日朝起きると孫の天使くんはやつぱりそばに眠ってました。男の子天使くんはおじいさんのお手伝いをしたりお話をしたり肩たたきしたりしました。

おじいさんはだんだん笑顔増えました。おじいさんのまわりにはいろんな人が集まってきます。ワイワイガヤガヤ笑い声でいっぱいです。おじいさんの顔にも笑顔がいっぱいいます。

男の子天使くんは思います。皆に囲まれて元気になったおじいさんはもう大丈夫だと。ある日男の子天使くんのところに神様から命令を伝える連絡天使ちゃんが生り降りました。

そし男の子天使くんは連絡天使ちゃんと小さな羽根でパタパタと天国に帰って行きました。

あとには小さなひまわりの花がひとつ咲いていました。

おじいさんは皆に囲まれて笑顔いっぱい毎日をおくつたそうです。孫の天使くんと暮らしたことは記憶にはありません。ただ家にだれかいてなんだか幸せな楽しい気持ちだった気持ちがあるので。

天国に帰った天使くんもおじいさんの娘さんであるお母さんたちと笑顔あふれておじいさんさんが来る日を待っています。そつとおじいさんを見守りながら。

二人目の天使は年齢にしたら12歳くらいの女の子です。

その女の子天使さんは校門の前の信号のところで自動車にはねられて死んでしまったのです。

校庭のすみには小さな花壇があります。友達と種をまいたすみれが芽をやつと出したところでした。

毎日女の子天使さんは水あげていました。

なんだか幸せでした。どんな色の花が咲くのかワクワクしてました。毎日毎日お水をあげたり雑草ぬいたり友達と当番決めてすみれさんのお世話してました。その日は天使さんの当番でした。

朝、女の子天使さんは当番なのに寝過ごしたのです。急いで支度をして家とびだしました。どどん駆けていきます。校門が見えました。一気に止まらず赤信号だというのとびだしました。その時です、やっぱり会社に急ぐ車にぶつかつたのです。

気が付くと女の子天使ちゃんは何と天国にいました。

そう死んでしまったのです。悲しくて悲しく泣いていました。

優しいお母さんにも、もう会えないのです。

すみれさんにもお世話できません。

その姿を神様はみていました。そして、女の子天使ちゃんにこう言いました。（学校とおうちに行っておいで）神様は優しく瞳で包みました。女の子天使ちゃんは地上に行くことになつたのです。

雪は天使たちの乗り物なのです。

次の朝、雪がふっていました。（行っておいで）神様はそう言いました。

天使ちゃんはひとひらの雪にのっかりました。

さあ校庭の畑です。お友達がそこにみーんないました。涙を目にいつぱいうかべてすみれさんのお世話をしていました。きっともう大丈夫だわ（ありがとう）その声はみんなの心に聞こえました。安心した天使ちゃんはそこを離れ家にむかいました。

家に着きました。家に入ると女の子天使ちゃんの写真の前に大好きなお母さんはションボリ座っています。女の子天使ちゃんが死んでしまったことがどうしても信じられないのです。

それはそれは本当にかわいがっていたのですから。おかあさんは女の子天使ちゃんがおなかにいるころからのことをずーと思い出していました。

女の子天使ちゃんが生まれたのはやっぱり雪の日でした。雪の精のような赤ちゃんでした。女の子天使ちゃんはお花が大好きでした。おとなになつたら花屋さんになりたいと思っていました。いつもお花に囲まれていたいと思っていました。だから学校で友達とお花を

育てることにしたのでした。校庭のお花畑にはすみれもひまわりもチュウリップも咲きます。すずらんだって季節には咲くのです。女の子天使ちゃんは生きていた時、優しいお母さんや家族囲まれ本当にしあわせだったのです。

だから女の子天使ちゃんもおかあさんも突然のお別れがまだ信じられないのです。

おかあさんは、悲しくて悲しくて毎日女の子天使ちゃんの写真を見ては涙ぐんでいます。これでは女の子天使ちゃんも心配で心配で天国には帰れません。

女の子天使ちゃんも悲しくなってしまう。

どうしたら、おかあさを笑顔できるのかしら考えこんでしまいました。女の子天使ちゃんは考えました。私がいなくなって悲しいのだから、私の代わりが必要なよね。と考えました。なんだろう、かわいいペットかしら？ そうだうさぎだと思いました。あれはいつだったかしらおかあさんが買い物に連れて行ってくれた時、通り道のペットショップで見たシヨウウインドのうさぎ、そのうさぎを見てこういいました。（なんだか貴女みたいね）って。

そのうさぎは淡いピンクをしていました。栗色の瞳が甘えるようにおかあさんを見つめたのを思い出しました。 そうだ！あのこだわ。

女の子天使ちゃんはペットショップに急ぎます。でも、もうあのうさぎはいません。可愛かったから売れちゃったんだ。女の子天使ちゃんはしょんぼりしてしまいました。 どうしよう。

するとそこへ軽トラックがペットとして売られる赤ちゃん動物が何匹も運び込まれました。女の子天使ちゃんは探します。うさぎを。

いました。前よりもっと小さくてやっぱり淡いピンク色の天使のような栗色の瞳をしたうさぎが二匹男の子と女の子です。可愛い！早くお母さん来ないかしら。

まだシヨウウインドウには出ていません。

女の子の天使ちゃんはお母さんを探します。

おかあさんです。

やっぱりシヨンボリ買い物かごを手にあるいて来ます。

なにげなくペットシヨップのシヨウウインドウに目をやります。

そこにさっきのうさぎが連れてこられました。女の子天使ちゃん

は女の子こうさぎにスーツと入ります。

おかあさんを甘い瞳でみつめました。(お母さん私よと)まるでその声が聞こえたかのようにおかあさんは女の子うさぎをみつめました。

たしかにおかあさんは女の子天使ちゃんを感じたのです。

おかあさんはお店の人に言いました。(この二匹をください！)

二匹はおかあさんのペットとしていつまでもしあわせにくらしました。おかあさんはまたえがおをとりもどしました。

女の子天使ちゃんはなごりおいしいのですがやがて天国帰る日がきました。

おかあさんを見つめてそしてとびとちました。お庭にはすすらんがかわいく咲いていました。女の子天使ちゃんのように。

次の天使さん十八歳のお嬢さん天使さんです。恋人に逢うためにはるばるフランスのパリまで逢いに行く途中だったのです。

お嬢さん天使さんの恋人はパリの大学で画家になる勉強をしていました。

だからお嬢さん天使さんは飛行機に乗ったのです。大変です！

飛行機は山脈の上に落ちてしまいました。

気が付くとそこは天国でした。

お嬢さん天使さんの背中には可愛い羽根、頭には天使のリングがあるのです。

お嬢さん天使さんは目から大粒の涙をながしました。恋人にはもう逢えないのですから。

泣いてる姿を見て神様は考えました。お嬢さん天使さんを恋人のもとにいかせようと。

ここは大学です。お嬢さん天使さんが大学の中を探しました。彼はどこにもいません。天使さんは彼のマンションに行くことにしました。お嬢さん天使さんにもうすぐ逢えるはずが彼女からの電話と違ってとつたそれがお母さんから墜落事故を知らせるものだったのですから。

彼はフランスに来る彼女の楽しそうな手紙を握りしめて呆然としていました。まだ信じられません。お母さんも泣いていました。

あれから何日たったのかも分かりません。今がいつなのかも分かりません。勉強も手に付きません。ただお嬢さん天使さんのことが頭の中でいっぱいなのです。

出会いから最後に逢った日までそこに埋もれました。

来たら結婚を申し込むつもりだったのです。

なんとという運命でしょう！

そんな彼を見てお嬢さん天使さんは大粒の涙をながし運命を恨みました。ひとしきり泣いた後こうつぶやきました。(とにかく彼を元気にしなくちゃ！) 神様の命令なのですから。お嬢さん天使さんは考えました。悲しみに疲れて彼は眠ってしまいました。そうだ夢でお話しようと思いました。天使にはそういう力があるのです。

夢の中です。彼は最初にデートした神戸の街の夢を見ていました。港の栈橋に座っていました。彼のそばにお嬢さん天使さんも並んで座りました。(元気?) 彼に声をかけました。すると横を彼は見ました。愛しいお嬢さん天使さんがそこにはいました。

死んだはずなのにでもそんなことは忘れて彼は思いの丈をお嬢さん天使さんに話しました。天使さんも悲しい想いを伝えました。そこで彼は目を覚まし思わず周り探しました。夢か! でもほんとに幸せな一時でした。彼女がそばにいたようないるようなそんな気がしました。そして急いでマンションに帰るといきなり絵筆をにぎりました。さっきの夢を忘れないうちに、そして 海の恋人達 という

作品を描きあげました。その絵には海を背景に寄り添う幸せな恋人達が描かれていました。その作品はコンクールで優勝し、今もパリの美術館で幸せな恋人達は寄り添っています。神様からの連絡はありません。お嬢さん天使さんは天国帰るのも忘れて恋人の夢の中でかたりあいます。恋人も目が覚めるとお嬢さん天使さんのことを描きます。

二人はずっと一緒でした。何十年たったのでしょうか、ある朝恋人は命つきる時がきました。二人手をとりあって天国に旅立たました。やっと二人は本当にめぐりあえたのです。ベランダには2つの花が寄り添うに咲く紫陽花が一つありました。姿は変わっても変わらぬ心を誓う様に。

ある雪の日に始まる幸せなお話（後書き）

後から文章整えたり完璧たり満点じゃない。  
残念！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8291i/>

---

天使たちのめるへん

2010年11月12日22時15分発行